

サウジアラビア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在サウジアラビア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	6	80	0	0	0	1	6	80

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

サウジアラビアの日本語教育は、1994年にキング・サ우드大学に日本語学科が開設されたことに始まった。キング・サ우드大学では2000年6月に初めての卒業生を輩出。日本企業への就職が実現している。また、同大学からは日本政府国費留学生も出ている。同大学は湾岸諸国内で唯一、学士号学位を授与する公的教育機関であることから、サウジアラビアのみならず湾岸諸国においても日本語教育の中核を担う役割を期待されている。

キング・サ우드大学以外への広がりとしては、2012年度日本語教育機関調査において、アルファイサル大学、キング・アブドルアジーズ大学女子部での日本語教育への取り組みが確認された。

サウジアラビアの文化事情から、日本語教育の対象者はかつて男性のみであったが、2010年頃からは女性への日本語教育も広がってきている。2010年から2011年まで、ジッダにあるダール・アルヘクマ女子大学にて

日本語講座が開講、2011年には外務省からの短期派遣女性教師によりプリンセス・ヌーラ女子大学、ダール・アルヘクマ女子大学、エファット女子大学、プリンス・スルタン大学女子部にて短期日本語講座が実施された。さらに、同年、サウジアラビア人女性教師によりキング・アブドルアジーズ大学女子部、ウム・アルクラ大学女子部、ジッダ・タワー・センターにおいても短期の日本語講座が行われた。

2011年6月から7月にかけてプリンセス・ヌーラ女子大学にJFの日本語専門家が派遣され、新たに開設される日本語学科のカリキュラム作成が行われたが、学科開設には至っていない。また、2012年にリヤドで開催された「第5回日本語弁論大会」において、初めて女性の部が設けられた。

このように、それまで唯一の日本語教育機関であったキング・サウード大学以外にも、日本語教育のすそ野が広がっており、2015年に開催された「第8回日本語弁論大会」では、機関に所属しない学習者が優勝を収めた。

2018年よりキング・サウード大学の学部カリキュラムの改訂により、日本語学科の修業年数がこれまでの5年制から4年制に変更となった。

背景

日本とサウジアラビアの交流は、日本のエネルギー政策の観点から当初経済面での交流が主流であったが、交流の多様化を図り、文化・人物交流なども積極的に進めるべきであるとの認識が両国で共有された結果、その一環としてキング・サウード大学にて日本語講座が開設されることとなった。

一般的にサウジアラビアにおいて日本は、高度経済成長を遂げ、先端技術を有する国として評価・関心が高い。例えば、テレビ番組などでも良好なイメージで紹介されることが多い。

また、日本は2011年に、「サウジアラビア伝統と文化の国民祭典（ジャナドリヤ祭）」において、毎年1か国しか選ばれない名誉ゲスト国として招待された。その日本館は来場者が30万人以上にのぼり、大成功を収めている。他にも、2017年4月の日本文化週間内では3,000人収容のホールにおいて日本語講座が行われ多くの男女が参加した。2025年には日・サウジ外交関係樹立70周年を迎え、両国間で多くの記念行事が開催された。

日本への留学に関しては、2006年からアブドゥラー国王奨学金プログラム（サウジ政府奨学金留学制度）を利用して日本へ留学するサウジアラビア人学生が急増した。2006年に約20名で始まった学生数は、2008年に約200名、2010年に約320名、2012年に約410名と増え続け、2014年には約600名を数えるまでになった。しかし、その後、奨学金受給要件の厳格化により2018年から激減し、2024年には、留学という資格で日本に在留しているサウジアラビア人は約77名となった。

特徴

サウジアラビアの日本語教育の特徴としては、教育機関で学ぶ学習者の全体数が少ないことや、日本語教育機関が高等教育段階に限定されていることが挙げられる。また、教育機関全般のこととして、基本的には初等教育より男女別学であり、教師も同性の教師が教えることがほとんどである。

サウジアラビアは2016年に、石油依存体質から脱却し包括的に発展を目指す「サウジビジョン2030」を公表、2017年に就任したムハンマド皇太子を中心に、社会・経済の改革が進められている。かつて、2013年前後は外国文化を紹介するイベントにはサウジアラビア全土で強い制限がかけられており、たとえ大使館であっても、認可を受けた高等教育機関以外では外国語講座を開くことができないほど厳しい状況であった。しかし、現在では観光業を推進し、異文化に対する理解が進み、寛容な社会が醸成されつつある。

最新動向

2023年3月に、キング・サワード大学で日本語を専攻して助手になった3名の内の一人が博士号を取得し、専任講師となった。歴代の日本語専門家が取り組んできた「持続可能・再生産可能なシステム作り」を達成したと言える。

また、2023年10月から民間の日本語学校で対面授業が開講された。社会の変化に合わせて、外国語教育が盛んになっていくことが予想される。

2025年12月時点、アルヤマーマ大学は日本語講座開設を検討している。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

2024年2月現在、日本語専攻課程があるのはキング・サワード大学のみである。同大日本語専攻卒業時のレベルは日本語能力試験N2程度である。他に、リヤドではアルファイサル大学、ジッダではキング・アブドルアジズ大学女子部において、選択科目として日本語講座が不定期で行われている。

学校教育以外

2023年10月から民間の日本語学校で初めて対面授業が開講された。オンラインでは他にも有志の個人などが日本語教育を行っている。

過去には在ジッダ日本国総領事館において、1999年4月から6月まで日本語講座を実施していた。また、ジッダにあるアブドゥルラティフジャミール・センター・フォー・コンティニューアス・ラーニング (ACCL) においても2009年から2010年まで一般講座が開かれていた。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-3-3制。初等教育機関として小学校（6年間）、中等教育機関として中学校（3年間）及び高等学校（3年間）があり、高等教育機関として大学（通常は1年予備教育、4年専攻科）及び2年制の短期大学、教員養成大学などがある。2004年の閣議決定により、小中学校の9年間は義務教育とすることが正式に制定された。

小学校から男女別学。公立の場合、大学卒業まで教育費は無料。政府は大学生を対象に月額約840リヤル（約25,000円）の奨学金も支給しており、進学を奨励している。

教育行政

サウジアラビアの初等教育、中等教育、高等教育はすべて、教育省（Ministry of Education）が管轄している。

言語事情

公用語はアラビア語。ただし、多くの場所で英語が通用する。

外国語教育

公立の学校では以前は英語教育が6年生から教えられていたが、現在では小学校3年生から行われている。近年の教育改革において、特に英語教育に力を入れていることがうかがえる。また私立の小学校では1年生から英語教育を取り入れているところもある。

2019年には中国語の授業が全教育段階で開始されるという発表がなされた（2025年現在、一部初等・中等教育において開始されている）。

外国語の中での日本語の人気

インターネットやTVなどを通じ、アニメを代表とする日本のポップカルチャーが特に若者層に浸透しており、日本語に対する人気も高い。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

- 『かなをまなぼう』 ファーリス・シハーブ
- 『アラブ人のための日本語』 ファーリス・シハーブほか
- 『中級への架け橋』 ファーリス・シハーブ
- 『まるごと 日本のことばと文化』（かつどう編 A1～）国際交流基金（三修社）
- 『初級からの日本語スピーチ』 国際交流基金関西国際センター（凡人社）
- 『BASIC KANJI BOOK Vol. I II』 加納千恵子ほか（凡人社）
- 『INTERMEDIATE KANJI BOOK』 加納千恵子ほか（凡人社）
- 『日本語文化読解』 ファーリス・シハーブ

学校教育以外

オリジナル教材が使われている。

IT・視聴覚機材

サウジアラビア国内で日本語が学習できる教育機関は限られているため、インターネットの語学学習サイトなどに登録することで、独学で日本語学習に励んでいるサウジアラビア人が多く見られる。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

専任講師は、日本語教育関連分野での修士号か博士号の学位取得者。助手や非常勤講師は、各大学の判断に任されている。日本語ネイティブ教師の場合は、日本語教育経験や日本語教師養成講座（420 時間）修了、日本語教育能力検定試験合格などがあると有利である。

学校教育以外

特に定められた資格はない。

日本語教師養成機関（プログラム）

サウジアラビアには日本語教師を養成する特別プログラムは存在しないが、キング・サウード大学日本語専攻課程では、将来のサウジアラビア人日本語教師を育成するため、成績が優秀だった卒業生を助手（アシスタント）として採用している。これまで 2008 年、2011 年、2012 年に 1 名ずつ計 3 名が採用された。そのように大学職員として採用された後は、専任講師昇格条件である修士号や博士号の取得を目指すことになるが、そのために日本に留学する場合には留学費用は国費で賄われ、留学期間中の給与も保証される。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

駐在員の配偶者など、滞在資格を持つネイティブ教師若干名が、短期講座の講師として採用されることがある。主に入門レベルの授業を、単独で担当する。

2025 年 12 月現在、日本語ネイティブ教師の雇用は確認されていない。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修は確認されていない。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

国内に日本語教育関係のネットワークはないが、中東諸国（エジプト、アラブ首長国連邦、イエメン、イラン、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、バーレーン、モロッコ、ヨルダン、レバノンほか）の日本語教師のネットワークがある（JF カイロ日本文化センターが主催）。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

JF からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

（情報なし）

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

リヤド及びジッダでそれぞれ年に1回、日本語能力試験が実施されている。

10.日本語教育略史

1993年	キング・サ우드大学に JF 専門家派遣開始
1994年	キング・サ우드大学に3年制日本語学科開設
1998年	キング・サ우드大学日本語学科が5年制に
1999年	在ジッダ日本国総領事館にて短期日本語講座実施

2001年	教科書『かなをまなぼう』『アラブ人のための日本語』出版
2004年	在サウジアラビア日本国大使館主催「第1回日本語弁論大会」開催
2009年	アブドゥルラティフジャミール・センター・フォー・コンティニューアス・ラーニング（ACCL）にて短期日本語講座実施
2010年	ダール・アルヘクマ女子大学にて日本語講座開始（2011年まで）
2011年	プリンセス・ヌーラ女子大学に日本語学科開設準備のため JF 専門家が短期派遣 プリンセス・ヌーラ女子大学、ダール・アルヘクマ女子大学、エファット女子大学、プリンス・スルタン大学女子部、ウム・アルクラ大学女子部、ジッダ・ダワー・センターにて女性向け短期日本語講座実施
2012年	アルファイサル大学、キング・アブドルアジーズ大学女子部にて日本語講座開始 「第5回日本語弁論大会」にて初めて女性の部開催
2018年	キング・サウード大学日本語学科が4年制に
2022年	日本語能力試験初開催
2023年	キング・サウード大学にて初のサウジ人専任講師が誕生

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）